

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

「いのちの授業」

富山市立城山中学校1年生生徒
平成21年10月13日実施

【いのちの先生】

太田 友恵先生

【授業の概要】

- 1 学習課題の確認と「いのちの先生」の紹介
- 2 いのちの先生の話
 - (1) 新しい自分をつくるために必要なこと
 - (2) 劇症肝炎になり、生体肝移植を受けたとき思ったこと
 - (3) 世界移植者スポーツ大会との出会い
 - (4) 目標を見つけること、苦しみは幸せの種
- 3 質疑応答



- ・生存率が10%という肝臓の重い病気を克服され、世界移植者スポーツ大会の競泳種目において、多数の金メダルを獲得するという快挙を成し遂げられた。
- ・「生きるということを真剣に考える」
「大勢の人に与えていただいた命を人のために使う」
「真の喜びや楽しさは、たゆまぬ努力や苦難を乗り越えた後に感じられるものである」とお話された。

お母さんへ

どんなに辛いこと、苦しいことがあっても、それに挑戦して、失敗しても次にそれを生かしていけるようにがんばりたいと思います。お母さんからもらったいのちを大切に、これから先を生きていきます。ありがとう。

【質疑】

Q：宣告されたときの気持ちは？

A：手術するの？嫌だ。でも助かるかもしれない。

自分に気力があつたこと、たくさんの人の支えがあつたから持ちこたえられたんだと思う。

Q：メダルを手にしたときの気持ちは？

A：うれしい！精一杯苦しいつらい目にあつたから感動があつた。

自分にはできないからといって、すぐにあきらめることはいけないこと、挑戦してみよう！ということを学んだ。

自分は、今までにたくさんのチャンスを無駄にしてきたかもしれない。何にでも、チャレンジしていけば、後悔はしないと今日の授業で思った。いのちは、いつなくなるか分からない。だからこそ、自らチャレンジして、悔いのない人生をおくりたいと思った。



お母さんへ

今日のいのちの授業を聞いて私は家族の素晴らしさを知りました。お父さん、お母さんがいなかったら私はここにいないし、いつもお母さんが話をしてくれたから、今、楽しいと思えます。私を産んでくれてありがとうと改めて感じました。